

11月

カトリック麹町教会

MAGIS

マジス = 「より、もっと、さらに」

教会テーマ

イエスにつながり 互いを受け入れ 御父の家へ とともに歩もう



St Ignace Catholic Church TOKYO

体の復活を信じます

協力司祭 ヘネロソ・フロレス

復活されて、復活させてくださるイエスは、私たちの信仰と希望の礎であり中心でもあります。そしてまた体の復活は、私たちの人生の旅の目的地でもあります。

社会の中で「死」という言葉は人々にその言葉自体が嫌われており、それを考

えたり話したりすることをできるだけ避けようとしません。確かに、例えば家族のメンバーや友達の死は、大きな

悲しみをもたらします。火葬場での「サヨウナラ」は非常に苦しい経験です。当たり前です。しかし、キリスト信者は、感情的に自然の悲しみを感ぜながら心の中で「サヨウナラ」を言うと同時に、「また会う日まで」という聖歌の歌詞も浮かぶのではないのでしょうか。

体の復活は自然のことでありません。超自然、神秘の世界のことです。人の理解力をはるかに超える概念です。分かることができない、信じるほ

かないのです。でも、「信仰」はいつも必ず神のたまものです。人の単なる努力の成果ではなく、神の恵みです。「信じている」というのは、実際には「信じさせていだいた」という意味です。だから私たちはすべからず信仰に感謝すべきでしょう。私自身の話です

が、私は復活させてくださるイエスの言葉を特別に心の中で思い巡らしてそれを味わうことが好きです。

「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる」
(ヨハネ6:54)

またイエスはナインという町の未亡人の息子に言われました。「若者よ、あなたに言う。起きなさい」
(ルカ7:14)

会堂長ヤイロの娘には、こうでした。「そして子どもの手を取って『タリタ、クム』と

The Raising of Lazarus
Jan Muller
ca. 1600

教会報 MAGIS 11月号

- | | |
|--|------|
| † 2023 年 教会祭 | P2~3 |
| † 司祭叙階おめでとうございます！
森晃太郎神父、渡辺徹郎神父 | P4 |
| † 教会活動グループ便り ⑧ | P5 |
| † 連載 光をつないで 最終回 | P6 |
| † Family of St. Ignatius
～スペイン語圏から～ | P7 |

言われた。これは『少女よ、わたしはあなたに言う。起きなさい』という意味である」
(マルコ5:41)

ベタニアのマルタの兄弟ラザロに言われました。「ラザロ、出て来なさい」
(ヨハネ11:43)

十字架の良き強盗には、こう言われています。「はつきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」
(ルカ23:43)

私は復活されて復活させる主イエスを、信じたい、信じている、信じさせていた。心から神に感謝いたします。

2023年 教会祭

「さあ、ともに歩もう」

25周年、そしてその先へ」をテーマに

2023年度の教会祭が、10月8日(日)11時から行われました。4年ぶりに入場制限を設けずに開催されたインターナショナルミサの参加者は約1300人。主聖堂のほかヨセフホール、マリヤ聖堂、天候に恵まれ屋外でも中継され ネット配信もされました。

ヨセフホールで献堂25周年シンボルマーク応募作品全点、教会学校の子どもの絵、献堂関連写真や資料の展示、屋外で各共同体の歌と踊りや縁日、読み聞かせ、午後からは主聖堂でシンポジウム、ワールドユースデー(以下WYD) 派遣者による帰国報告会が行われました。

インターナショナル・ミサ

9つの言語が融和したミサ
司式の高祖敏明主任司

▲待者、聖歌隊も各共同体から

祭とともに9人の司祭が入堂され、9つの言語で執り行われました。入祭唱(インドネシア語)、いつくしみの賛歌(日本語・ラテン語)、栄光の賛歌(スペイン語)、第一朗読(インドネシア語)、答唱詩編(ベトナム語)、第二朗読(ポーランド語)、アレルヤ唱(日本語)と進みました。

福音朗読の後の説教で高祖神父は「教会祭のテーマには三つの祈りと願いが込められています」として、次のように話されました。

「一つは、本日の朗読箇所に関連してイエスが語った言葉に強く現れています。

『私があなたがたを選んだ。あなたがたが行って実を結び、その実が残るように』(ヨハネ15:16)。イエスにつながって、よい実を結ぶことができますように。

二つ目。今年の教会祭は来年の献堂25周年を意識しています。そしてその先にある『ミッシン2030』(祈り、つたえ、つながり、ともに歩む)を、促進していきますように。

また三つ目は10月4日にローマのバチカンで始まったシノドスに関わります。シノドスが重視している教会の基本姿勢は『ともにいてくださるイエスとともに』。私たちは教会が信徒仲間の枠を超えて地球上に住むすべての人とともに歩んでいることを自覚し、実践するように招かれています。またシノドスは、聖霊に導かれて『時のしるし』を識別する道をともに歩もうとしています。シノドスの公式請願文をもって聖霊に祈りと願いを捧げましょう」(＊「シノドスのための祈り」は3頁参照)。

その後、使徒信条と主の祈り(各言語)、共同祈願

(7カ国語)、奉納の歌(4カ国語)、感謝の賛歌(タガログ語)、平和の賛歌(ベトナム語)、拝領唱(ヨルバ語・日本語・英語および各言語)で捧げられました。閉祭唱はインターナショナルミサを象徴する「アーメン・ハレルヤ」(手話付き)が歌われ、参加者全員の心が一つになりました。

献堂25周年記念
シンボルマーク発表

ミサに続いて、献堂25周年記念シンボルマークが発表されました(別一頁に掲載)。

教会祭シンポジウム

テーマ

あらためて「シノドス」とは
シノドスの教会に向けて、
みんなで学ぼう

2023年10月4日、29日まで世界代表司教会議(シノドス)第16回通常総会が行われました。今回のテーマ「ともに歩む教会のためー交わり、参加、そして宣教」は「シノドス」(ギリシャ語で「ともに歩む」)そのものです。

各共同体の「シノドス」の

歩みについて、神父様とシスターがお話しくださいました。献堂25周年に向けて言葉の壁を越えてつながり、「ともに歩む」シノドスの教会を目指します。

・ボニー・ジェームス神父

昨年までのシノドスは司教の集会でしたが、今回は司祭、シスター、信徒も参加しています。「交わり、参加、宣教」3つのテーマの共通点は「ともに歩む」です。

教会学校でよく話すのですが、父母が出会って命が誕生し、家族として一緒に歩むうちにまったく知らない者同士でも新しいものが生まれます。この教会のこととして考えると、9つの言語のミサでの祈り、歌は大きな恵みです。

今年度の教勢調査によると、主日ミサに参列している日本人の信徒は1259人、外国人信徒は1798人で、毎月結婚するカップルは外国人の方が多いです。異なる文化と言語を一つにするのは信仰です。各共同体の努力が必要とされています。

【11月の共同祈願】

私たちが神様と周りの人々との
交わりを深めながら、
シノドスの道を
ともに歩むことができるよう、
聖霊の導きを願い求めます。

【シノドスのための祈り】



聖霊よ、わたしたちはあなたの前に立ち、あなたのみ名によって集います。
わたしたちのもとに来て、とどまり、一人ひとりの心にお住まいください。
わたしたちに進むべき道を教え、どのように歩めばよいか示してください。
弱く、罪深いわたしたちが、一致を乱さないよう支えてください。
無知によって誤った道に引き込まれず、偏見に惑わされないよう導いてください。
あなたのうちに一致を見いだすことができますように。
わたしたちが永遠のいのちへの旅を続け、
真理と正義の道を迷わずに歩むことができますように。
このすべてを、いつどこにおいても働いておられるあなたに願います。
御父と御子の交わりの中で、世々とこしえに。アーメン。



・森晃太郎神父
WYDRリスボン大会に青年信徒と参加しました。テーマ「マリアは出かけて、急いで山里に向かった」(ルカ1:39)に沿って振り返り、マリアの歩みから「ともに歩む」について考えたいと思います。皆さんは何ととも歩んでいきますか。まず、この答えを考えみてください。
①身になる(ルカ1:38より)
神の望みを知り、勇気ある「はい」は、自身から抜け出し、人のために奉仕する召命の秘密を理解した人の返事。神への「はい」を思いう出ず。
②受けている恵みに気づく
受洗した時の「はい」とそれに答えているか再確認する

②「急いで」の2つの意味
(ルカ1:39より)
不安やあせりであわてる気持ち、楽しみや期待ではやる気持ちの2つの意味がある。マリアは早くエリサベトに会って伝えたかったのではない。
③「急いで」は自分にとってどういうことか、自分の心の動きを見ながらマリアとともに出かけていく
③確かにする
(ルカ1:41より)
マリアはエリサベトを訪ねて、天使のお告げが本当だったことを確信した。信仰の歩みを通して恵みに気づきそれに答える愛があるか。一人ではなく、誰かとのやり取りで、神の存在や働きを確かにする。
④誰かと分かち合い、確かにしていく
④「帰る」が「出かける」
(ルカ1:56より)
マリアはどのような気持ちで帰って行ったのか。「帰る」は元いた場所に帰るのではなく、新たにされて「出かけていく」こと。さらに喜びを持って帰ったはず。
⑤喜びの内に帰り、人々に伝える

・Sr. フロール・フロレーセ (英語圏)
英語グループは6カ月間にわたり、会議と分かち合いを行ってきました。教会で「シノドス」に関連するイベントを進めることを望んでいます。他の小教区グループ、特に日本人や異なる文化圏の人たちとの分かち合いも必要だと思います。
他には
①教会レベルで翻訳・通訳者を確保する
②相談や対話、英語教会報や「マジス」での情報の発信を通してコミュニケーションをとる
③若者(青年会)と子ども(日曜学校)に役割を与え、課題に取り組んでもらう
④聖霊に耳を傾け、心を開く
・アントニウス・フィルマン
・シャール神父
(インドネシア共同体)
「パレーシア」(ギリシャ語で「正直に伝える」)は教皇の言葉です。私たちの共同体のことだと思えます。みんな旅人で、さまざま不安や現実を抱えながら共同体に入ろうとしています。日本人も同じです。旅人と

して、率直に伝え、お互いに耳を澄ませたいです。
「やもめの献金」(ルカ21:1-4)でのイエスに注目してみよう。やもめの心をイエスが言葉にしました。本物の捧げ物はこれだ。小さな捧げ物しかできない人が多いですが、お互いに「ありがとう」と言うことで支え合いたい。持つてくる物を全部捧げて、すべてを受け入れる。皆で、旅人の教会のプロセスを歩んでいきましょう。
・グエン・タン・ニャー神父
(ベトナム共同体)
ベトナム語のミサには約700人のベトナム人信徒が参加しています。ほとんどは若者で、日本語や英語の壁があることもあり、「シノドス」について考えるまでに至りません。
ベトナム人は技能実習生として来日して日本で結婚し、ほとんどが5年以内に帰国します。それでも信仰講座には45人の子どもがいて、先日はベトナム人祭りを行いました。この家族を聖イグナチオ教会のメンバーになるよう養成しています。

叙階式・初ミサ

9月23日(土・祝)14時から主聖堂で菊地功大司教の主司式のもと、アシジのフランシスコ森晃太郎助祭と洗者ヨハネ渡辺徹郎助祭の司祭叙階式が行われました。

翌24日、森晃太郎新司祭は思い出多い聖イグナチオ教会の10時ミサで、渡辺徹郎新司祭は上野教会12時ミサでイエズス会中国センターに集う中国人信徒の皆様とともに、それぞれに心温まる初ミサを執り行いました。皆様、どうぞお二人の新司祭のために祈りください。



▶叙階の儀「諸聖人の連願」

神様の粹な計らい?!

森 晃太郎神父

聖イグナチオ教会に行く時々、日曜学校のリーダーをしていた頃の仲間に出会います。そして、みんな口をそろえて話してくれる。2010年3月のリーダー卒業式で私が、ヨセフホールの壇上から「明日、イエズス会に入ります」と挨拶した時の衝撃を。それからあつという間に月日が流れ、13年。司祭に叙階され、新たな一歩を踏み出しました。

聖イグナチオ教会の主聖堂は、自分が人生の生きる意味を失い、未来がまったく見えなくなっていた時、「イ



●森晃太郎神父 プロフィール●

1986年9月18日生まれ
2010年3月 入会、修練、哲学を学ぶ
2018年 中間期として広島学院で教える
2020年～ 神学課程に入る
2023年3月 助祭叙階
2023年9月23日 司祭叙階

エス・キリストは確かに生き、共におられる」と確信し涙した特別な場所です。そして叙階式も、初ミサもこの主聖堂。さらに、地元山口から上京し、約10年ぶりにアルさん(アルフレド・セゴビア神父)に再会したのも聖イグナチオ教会でした。アルさんからリーダー部屋へと案内され、日学での活動が始まり今がある。聖イグナチオ教会での、みんなとの出会いは、自分の召命において欠かせないものとなりました。

みんな、ありがとう。そして、聖イグナチオ教会でのこれからの出会いを楽しみにしています。神様はどのような計らってくださるだろうか。

仕えるために

渡辺徹郎神父

イエズス会の渡辺徹郎と申します。出身は宮城県仙台市です。イエズス会の養成は修練期・哲学期を東京で、中間期を台北で、神学期を東京とマニラで過ごしました。

現在は上智大学神学研究科で倫理神学について研究するかたわら、イエズス会中国センターでの司牧活動や、「Magis巡礼者」という青年活動に携わっています。イエズス会中国センターとは上野教会にある中国語カトリックコミュニティであり、ミサや種々の活動を行っています。また、「Magis巡礼



●渡辺徹郎神父 プロフィール●

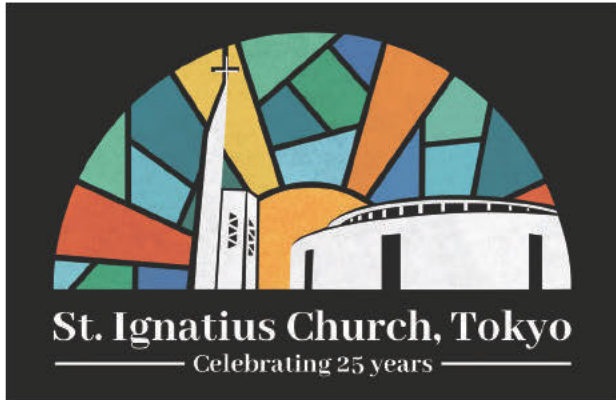
1987年9月15日生まれ
2013年3月 入会、修練、哲学を学ぶ
2018年 中間期生として中華管区に派遣される。台北の「Magis 青年センター」でスタッフとして青年司牧に携わりながら、中国語を学ぶ。
2020年～ 神学課程に入る
2023年3月 助祭叙階
2023年9月23日 司祭叙階

者」とは18〜35才の青年を対象としたイエズス会が主宰する世界的ネットワークをもつ青年グループで、日本では聖イグナチオ教会敷地内の岐部ホール401号室で土曜日を中心に活動しています。

趣味は語学学習、友人と一緒にご飯を食べることです。アジア系の料理が一般的に好きです。最近特に好きなのはベトナム料理や韓国料理、ガチ中華と呼ばれるリアルな中華料理です。夢は他の著文化圏の国々の言語(ベトナム語・中国語・韓国語)をすべて習得することです。

今後ともどうぞよろしくお願いたします。

献堂 25 周年記念事業 シンボルマーク 決定!



7 月から 9 月にかけて募集していた献堂 25 周年記念事業のシンボルマークを選定し、10 月 8 日(日)の教会祭で発表しました。神さまからのたまものを存分に発揮した、9 名の皆さんより素晴らしい作品が寄せられました。

力作揃いの中、紙一重の非常に難しい選考となりましたが、[] さんの作品が、シンボルマークとして選ばれました。

来年度の献堂 25 周年記念事業において、選ばれた作品を中心として、いろいろな場面で活用していきます。

● [] さんがシンボルマークに寄せたメッセージ

聖イグナチオ教会のことを思う時、私の心に最も響く言葉は「シェルター」です。新しい国に来ることはしばしば孤独な経験となりますが、私は、教会の中にいて、ここが霊的な避けどころというだけではなく、手を広げて私を歓迎している共同体であると気づきました。

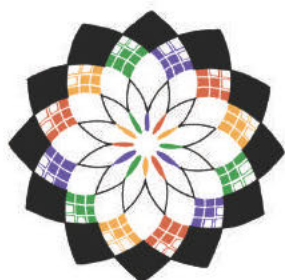
初めて主聖堂に足を踏み入れた時、最初に私の心をつかんだのは壮大なステンドグラスでした。それは、聖堂の美しさと教会が私たちの生命にもたらす光の象徴です。私たちの会衆が織りなす多彩で多様なタペストリーを表すステンドグラスに触発されて、シンボルマークの基礎となる発想を得ました。

日が昇るイメージは東京へのオマージュ(敬意)であり、前景に目立たせてあるのは、教会の敷地を飾り、私たちの愛する共同体の心と魂を表した 2 つの象徴的な建物です。

多数のご応募、ありがとうございました!



▲ [] さんの作品

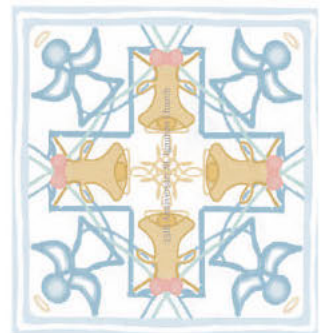


St. Ignatius Church, Tokyo
Celebrating 25 years

▲ [] さんの作品



▲ [] さんの作品



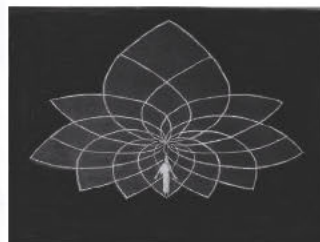
▲ [] さんの作品



▲ [] さんの作品



▲ [] さんの作品



▲ [] さんの作品



▲ [] さんの作品

※アルファベット順

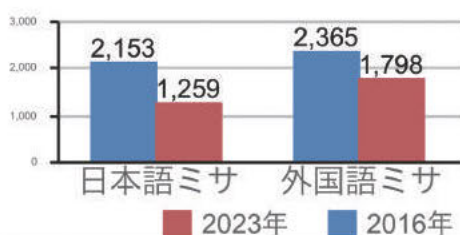
2023 年教勢調査

実施日	9 月 24 日(日)	9 月 30 日(土)	10 月 1 日(日)
天候	晴れ	曇り 時々雨	曇り

●主日ミサの参加者

	ミサ	性別	聖体拝領を受けた人	祝福を受けた人	聖体拝領も祝福も受けなかった人	計
9 月 24 日	16 : 30	男	34	1	0	35
	マリア聖堂	女	30	0	1	31
	インドネシア語	合計	64	1	1	66
9 月 30 日	18 : 00	男	75	9	4	88
	主聖堂	女	153	4	3	160
	日本語	合計	228	13	7	248
10 月 1 日	7 : 00	男	31	4	1	36
	主聖堂	女	72	2	6	80
	日本語	合計	103	6	7	116
	8 : 30	男	79	4	1	84
	主聖堂	女	172	5	1	178
	日本語	合計	251	9	2	262
	10 : 00	男	93	9	6	108
	主聖堂	女	266	15	12	293
	日本語	合計	359	24	18	401
	12 : 00	男	197	24	53	274
	主聖堂	女	378	41	71	490
	英語	合計	575	65	124	764
	12 : 30	男	10	1	9	20
	マリア聖堂	女	24	1	7	32
	ポルトガル語	合計	34	2	16	52
	13 : 30	男	28	2	0	30
	主聖堂	女	68	2	0	70
	スペイン語	合計	96	4	0	100
	15 : 00	男	170	80	92	342
	主聖堂	女	238	85	87	410
	ベトナム語	合計	408	165	179	752
	16 : 00	男	13	4	9	26
	マリア聖堂	女	24	2	12	38
	ポーランド語	合計	37	6	21	64
	18 : 00	男	63	8	2	73
	主聖堂	女	129	20	10	159
	日本語	合計	192	28	12	232
主日ミサ合計		男	793	146	177	1,116
		女	1,554	177	210	1,941
		合計	2,347	323	387	3,057

主日ミサ参加者数



●教勢調査の結果

9 月 24 日(日)、30 日(土)、10 月 1 日(日)の3日間にわたり、今年度の教勢調査を、各主日の聖堂係のご協力で開催しました。

ミサ出席者は、3,057 人(昨年度は 1,698 人)でした。

2005 年以降、最多のミサ出席者 4,518 人を記録した 2016 年に比較して 67% まで回復しています。

注目すべきは、2016 年もそうなのですが、外国語ミサ出席者が日本語ミサ出席者よりも増えていることです。

活動グループ便り ⑧

各活動グループから、現在の活動状況の報告です



壮年会

これまでの歩みと主な活動
(歩み)

壮年会は1966年11月、当時の主任司祭ヨハネス・ベチコフェル神父様を顧問に発足。会員は36歳以上の男子。壮年会、マリア会、青年会、女子青年会が、教会委員会の方針を受けて、典礼奉仕、教会行事などの企画から実行まで分担して幅広く活動していた。

その後、いくつかの奉仕グループが立ち上がり、1996年ころ新聖堂の建設準備に合わせて、「意識の転換」運動が始まった。「一人一役、PT*1、SPT*2活動」の結果、新聖堂建設後、たくさんの奉仕グループ「活動グループ」が生まれ、そのため、壮年会としての活動範囲は絞られていったが、聖堂奉仕、教会行事支援は続け

〈主な活動〉

られ、現在に至っている。

☆聖書と典礼の勉強(現在は毎月ヘネロソ・フロレス神父の講話、マリア会と合同)
☆メンバーの幅広い情報交換や教会の運営などについての意見交換
☆教会と接点を持つ社会の問題についての意見交換
☆教会委員長や多数の評議員の輩出による教会運営への貢献

☆主日8時30分ミサ聖堂奉仕
☆クリスマスイヴのミサの場外誘導
☆クリスマスミニバザーや教会祭バザーの場内警備

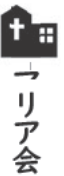
☆その他、教会委員会、評議員委員会から要請された活動の支援

最近では、高齢化により会員数が減少しています。皆様の入会をお待ちしております。

*1 PT…プロジェクトチーム

*2 SPT…サブプロジェクトチーム

※活動グループの活動内容・スケジュール等は変更になることがあります。また講座に初めて参加される方は、講座担当者か教会事務室にご確認ください。



マリア会

マリア様を大切に…
新企画「終活セミナー」も

1947年に聖イグナチオ教会が献堂されてまもなくヘルマン・ホイヴェルス神父様ご指示のもと、マリア会は活動を始めました。年齢層が広く、意見交換や助け合いも盛んなグループです。

現在の活動は、コロナにも負けずに主日8時30分ミサの聖堂係を務め、復活祭には色とりどりの可愛らしいイースターエッグの作成と配布をします。バザーでは皆様から贈られた献品の仕分と頒布等で教会をお助けしています。月一回の例会では、皆でロザリオの祈りを唱えたり聖歌を歌い、フロレス神父様、先日姫路に移られたシスター景山あき子の講話で心を育てていただいています。

新しく始めた活動に「終活セミナー」があります。栄光式典社、帝都典礼の両社に多大なご協力をいただきながら「お一人様」や「子ども」に迷惑をかけたくない高齢のご夫妻」が安心して生

き生きと老後を暮らしていくための準備の仕方を、元氣なうちに学びます。今年の「終活セミナー」について、帝都典礼は6月11日にご好評のうちに終了いたしました。

又、栄光式典社は11月12日(日)アルペホールで10時30分から開催予定です。貴重な学びの場には是非お気軽にご参加ください。

マリア会はこれからもマリア様を大切にして、イエス様のお導きのままに、教会共同体の一員として務めて参ります。

ボニー・ジェームス神父
信徒養成講座

「聖書と典礼」を読む

「聖書と典礼」の福音を読み、ボニー神父の講話を学ぶ集いを約4年前から続けています。現在、20名弱の方が集います。

まず、参加者一同で祈り、聖歌を歌い、その週の福音を読みます。その後、約50分間、ボニー神父の講話があり、質疑応答の時間も設けています。

通常、私たちがミサに与る時には、聖堂入り口で「聖

書と典礼」を受け取り、ミサの進行にともない朗読を耳で聴きながら目で活字を追います。これでは事前の準備不足のため理解が万全とはいえない場合もあります。

ミサの前に、朗読箇所を繰り返し読み、学び、心に留めておき、ミサ中は朗読を聴くことに集中できれば心に響く感動は一段と深くなります。

ボニー神父の講座で学びを重ねるにつれて、ミサに与る前の準備の大切さを、実感しています。

日時：毎月第一土曜日

10時30分～11時30分

(11月のみ第2土曜日)

場所：岐部ホール309

参加希望の方をお待ちしています。



St Ignatius Catholic Church, TOKYO

連載 光をつないで 最終回

人々の信仰と教会の歩みの証し

「光をつないで」は、当教会の青年信徒が聞き手となり、信仰上の諸先輩からその人生と神との交わりについての話を聞くことで、神とともにこれからの人生を歩むためのヒントを得ることを目的とした連載です。最終回である10回目は、当教会信徒マリヤ・インマクラータさん（84歳）に伺いました。

※語り手の名前は洗礼名

——キリスト教を知ったきっかけは何ですか？

青森県出身で、近所のドミニコ会の教会に行ったことがありましたが、中学生の時、友人に誘われ、別のプロテスタントの教会の集まりに参加しました。そのときに「自分の知っているあの（ドミニコ会の）教会とは随分、雰囲気が違うんだな」と感じ、それがきっかけとなり、ドミニコ会の教会に通い始めました。仏教徒の家庭で育ち、キリスト教の教派の違いも知らなかったはずなのに、不思議なことです。

当時ミサで侍者をしていた年上の人たちが、東京のカトリックの大学に進学すると聞いて、東京にはそのような大学があるのだと憧れま

旧洗礼堂での洗礼式

受洗したのは20歳のときです。洗礼式のことにはよく覚えていません。前室で他の受洗者たちとともに神父様のストライプにばかり、列になって神父様の後を歩きました。



▲洗礼堂にあったステンドグラス

途中とどころで立ち止まり、自らの信仰と受洗の意志に関する質問をされました。その度に「はい」と答えました。心の底からの決心でした。洗礼堂は聖堂に隣接した美しい八角形の間で、各面の青いステンドグラスには、魚の模様などが描かれていました。

「ここで働きたい」と呼ばれ

やがて当時の主任司祭であつたヘルマン・ホイヴェルス神父様に、教会で働くように言われ、聖イグナチオ教会の事務員となりました。その頃はホイヴェルス神父様とヨハネス・ベチコフエル神父様のお二人で教会を取り仕切っていました。お二人のうちどちらかは一日中告解室にいて、訪れる人の告解を聞くという体制だったこともあり、事務仕事を専任で引き受ける人が必要になっていました。

カマボコ兵舎と呼ばれる米軍から譲り受けた半円筒形の簡易な兵舎で、事務机を一つ置いたら部屋がいっぱいになってしまいました。が、そのようにして教会事務室

の仕事は始まりました。洗礼証明書などの書類はまだラテン語で、神父様に頼んで訳してもらいました。聖歌隊が不在中、結婚式が行われた時には、即席の聖歌隊として駆り出され、神父様方と私の3人で大きな声で聖歌を歌いました。

——教会での仕事で心に残っていることは？

さまざまな人の深い信仰を目にしました。自分は受洗したにも関わらず、亡き兄に代わって実家の寺を継ぐために郷里に帰っていった青年がいました。教会を去る時、「私の宗教はカトリックです。仕事は僧侶です」と信仰告白するのを聞きました。年齢の若さに関係なく、皆真剣に信仰の道を歩んでいました。

夜中にひっそりと洗礼式や結婚式が行われることも度々ありました。周囲の反対により公然と秘跡を授けられない人々が、夜中に神父様を訪ねるのです。本人たちの意志を確認すると、普段のままだ神父様の部屋で、静かに式が行われました。家

族が決めた神道や仏教の結婚式の前夜に本人たちが秘跡を望んで教会を訪れる、そんなことは当時たくさんあったのです。

教会バザー用品作りや、能舞台「復活のキリスト」の豪華な衣装が届いた時のこと、皆で企画した国内外への巡礼や児童養護施設でのボランティアなど、よき思い出いっぱいです。



全10回の連載を通して、教会に集う人々がどのような生活を送っているかを知った。取材を受け入れてくださったすべての方に改めて感謝の意を表するとともに、現聖堂献堂25周年を迎える私たちが、一つの大きな家族としてキリストのうちに一致し、先達の信仰を受け継いで歩み続けられるよう祈りたい。

これからも個人的に人々の信仰の歩みを聞き、後世に語り継いでいきたいと考えているが、聞き手として活動できたこの1年間は私にとって本当に祝福された、「恵みの時」であった。





Family of St. Ignatius

～スペイン語圏から～

スペイン語のミサに参加したことがありますか？

スペイン語圏の共同体は、毎週日曜日の13時半に集まり、主の日を共に祝います。このミサに参加したことがある人は、聖歌隊の歌声で盛り上がる典礼の中で、信仰の喜びを分かち合うことができます。

入祭の歌から最後まで、一週間の間に神が与えてくださったすべての恵みに感謝しながら共に集うことができる喜びが反映されています。それゆえ、主に陽気なリズムは、私たちの父である神の心に向けられるような、人の心から湧き上がる喜びの感情を歌詞とともに伝える

ことができます。

この聖歌隊は、様々な国籍の人々で構成されており、そのような多様な人々の中で最も印象的なのは、平和と一致の雰囲気の中で、典礼の歌唱を通して教会に奉仕したいという彼らの願いです。

ミサの各曲は、それぞれが神との出会いのために、より深く、より親密な雰囲気を作り出そうとする情熱を表現しており、同時にミサに参加する共同体全体の間に喜びの風土を作り出しています。

まだスペイン語のミサに参加したことのない方がいらっしやいましたら、ぜひ一度参加して、この共同体とともに、祈りと分かち合いを体験してください。

セントロ・ロヨラ

ミッション 2030 黙想と分かち合い

～祈り・つたえ・つながり・ともに歩む～
小さな分かち合い

「あわれみ深い母である教会」

開催日時：11月5日(日)13:30～15:30

場所：ヨセフホール

プログラム：①サトルニノ・オチョア神父の講話
②黙想
③分かち合い

献堂25周年を迎えるにあたり、「私たちにとって教会とは」をテーマに、オチョア神父さまからお話ししていただきます。教会の意味、教会の恵みなどについて理解を深め、信仰をより豊かに育んで参りましょう。

*詳細は教会ホームページ、ポスター・チラシでご確認ください。

●2023年クリスマスミニバザーのお知らせ●

開催日：11月26日(日)、12月3日(日)

時間：8:30ミサ終了後～13:30

- ・感染予防対策を徹底し、小規模ミニバザーとして、屋外にて実施します。
- ・10グループの出展を予定しています。

*出展申込みはすでに締め切りました。

*バザー頒布用献品と手作り食品は受け付けていません。

献金は聖イグナチオ教会を通じ、困窮地域支援に充てられます。送り先は後日お知らせします。皆さまのご協力をお願いいたします。

クリスマスバザー実行委員会

●教会黙想会●

日時：11月23日(木・祝)

13:00～講話・黙想・霊的対話 16:00～ミサ

場所：主聖堂

(霊的対話は各部屋に分かれて行います)

テーマ：「あなたに、話がある」

～教皇フランシスコが目指すシノドスの教会～

指導：ホアン・アイダル神父(イエズス会)

事前予約不要、YouTube 配信あり。

*詳細は教会ホームページ、ポスター、チラシをご覧ください。

●クリスマスイヴのミサ時間●

本年12月24日は日曜日です。待降節第4主日ミサを午前中に行ったあと、下記時間でクリスマスイヴミサを行います。

クリスマスイヴミサ時間：15:00 17:00 19:00 21:00(英語)

*参加方法などの詳細はホームページ、チラシでご確認ください。

●財務報告●

9月24日(日)「世界難民移住移動者の日の献金」908,185円は、日本カトリック難民移住移動者委員会を通じて、幅広く支援に役立てられます。

11月の典礼と行事

1 (水) 諸聖人の祭日	『社会問題とカトリック教会の考え 2023年度連続セミナー』 「シノドス」とともに歩む教会を目指して 18:30 ヨセフホール シノドス対話の実践③ 交わり、参加、共同責任、ともに教会の一員として 「交わり、参加、そして共同責任」(大陸ステージ文書 3-3) 講師:ボネット・ピセンテ神父、 氏 他シノダるチーム
2 (木) 死者の日	死者の日ミサ 7:00 12:00 18:00
3 (金) 初金曜日	
4 (土)	2022年度合同追悼ミサ(第2回) 10:00 主聖堂 七五三祝福式 15:30 主聖堂
5 (日) 年間第31主日	ミッション2030 黙想と分かち合い 13:30 ヨセフホール
8 (水)	傾聴ルーム 11:15 ~ 15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後
12 (日) 年間第32主日	子どもとともにささげるミサ 10:00 日曜サロン・ミニオリエンテーション 11:00 ~ 12:30 ヨセフホール ミサがわかるセミナー 13:00 ヨセフホール 年間テーマ「ミサを通して神を学ぶー新しい式次第とともに!」 今回テーマ「全能永遠の神」 講師:石井祥裕氏
15 (水)	クリプタに安置され11月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00 『社会問題とカトリック教会の考え 2023年度連続セミナー』 「シノドス」とともに歩む教会を目指して 18:30 ヨセフホール シノドス対話の実践④ 神の民である教会は、ともに歩む形をつくる 「シノダリティが形になる」(大陸ステージ文書 3-4) 講師:原 敬子氏、氏 他 シノダるチーム
18 (土)	新受洗者と代父母のためのフォローアップ講座 15:00 ヨセフホール
19 (日) 年間第33主日	教会活動連絡会議 13:00 ヨセフホール ミャンマーデー 貧しい人のための世界祈願日 聖書週間(19日~26日)
22 (水)	傾聴ルーム 11:15 ~ 15:00 ヨセフホール 水曜ティーサロン 12:00 ミサ後
23 (木)	教会黙想会 13:00 主聖堂
24 (金)	聖フランシスコ・ザビエルの取り次ぎを願う9日間の祈り(~12月2日まで)
26 (日) 王であるキリストの祭日	クリスマスミニバザー 9:30 世界青年の日
28 (火)	オルガンと祈り 19:00 主聖堂
30 (木)	ヤングオールド映画会「天使にショパンの歌声を」 13:00 ヨセフホール

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定が変更になる場合があります。

主任司祭:高祖 敏明

助任司祭:ボニー・ジェームス
グエン・タン・ニャー
サトルニノ・オチョア
柴田 潔

協力司祭:ヘネロソ・フローレス
ハビエル・ガラルダ
関根 悦雄

マヌエル・シルゴ
シスター:イベッテ・サンチェス
(セントロ・ロヨラ)

フロール・フロレーセ
(ジョン・デ・プリット イングリッシュセンター)

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】主聖堂 Main Chapel
7:00/12:00/18:00

【土、日曜日 Saturday & Sunday】主聖堂 Main Chapel
土曜 18:00 日曜 7:00/8:30/10:00/18:00
12:00 (English) /13:30 (Español) /
15:00 (Việt Nam)

【月の第1日曜日 1st Sunday】
Our Lady's Chapel
12:30 (Português) /16:00 (Polski)

【月の第2第4日曜日 2nd & 4th Sunday】
Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

カトリック麹町教会
(聖イグナチオ教会)

〒102-0083
千代田区麹町6-5-1
TEL 03-3263-4584
FAX 03-3263-4585
<http://www.ignatius.gr.jp>



ホームページ



フェイスブック

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。

*本文中の役職名等は、寄稿もしくは取材時のものです。